

平成30年7月23日

豊田市議会議長 鈴木 章 様

教育社会委員会  
委員長 桜井 秀樹



委員派遣実施報告書

本委員会は、下記のとおり委員派遣を実施しましたので、委員会条例第37条第1項の規定により提出します。

記

- 1 日 程 平成30年7月10日（火）～12日（木）
- 2 派遣先及び内容  
10日（火）…静岡県静岡市／  
ふじのくに地球環境史ミュージアム  
11日（水）…神奈川県大和市／  
児童に対する英語教育  
12日（木）…千葉県我孫子市／  
放課後子ども教室
- 3 派遣委員  
委員長 桜井 秀樹  
副委員長 北川 敏崇  
委員 岡田 耕一 梅村 憲夫 小島 政直  
清水 郁夫 板垣 清志 中村 孝浩
- 4 報告書 視察報告書のとおり
- 5 その他 随行 / 上田 研、加納 祐太

## 視察報告書【1】

委員会名	教育社会委員会	委員長	桜井 秀樹
視察日時	平成30年7月10日（火）午後1時30分～午後3時30分		
視察先・概要	平成28年3月26日開館、RC造3階建て、延床面積9334.49㎡ 県立静岡南高校をリノベーションして整備		
視察内容	ふじのくに地球環境史ミュージアム		
選定理由	ふじのくに地球環境史ミュージアムは、静岡県立の自然系博物館であり、全国初となる地球環境史の博物館を、廃校活用により整備した。活動テーマ「百年後の静岡が豊かであるために」の具現化にあたり、自ら考え、行動への実践へと導くことを目指し、「学び、考える場」という学校環境を活かした「思考を拓くミュージアム」をコンセプトとしている。ミュージアムインタープリター（展示交流員）が活動し、来館者と対話しながら思考を促す取組などを行っており、ユニークで活気のある博物館づくりの参考になると考えたため。		
豊田市の現状と課題	本市では旧豊田東高校の跡地を利用し、歴史と自然を一体的に取り上げる総合博物館として整備されることが検討されている。 新博物館の使命として、「市民と共に豊田市の歴史・文化財・自然を発見し、守り、未来へ伝える」「身近なきっかけや体験から主体的な学びを育む」「多様な人々や文化が出会う場となり、豊田市の魅力や新たな価値を生み出す」もので、豊田市民に親しまれる施設を計画することが必要である。		
視察概要	<p>■施設概要</p> <p>管理形態：県直営            人員体制：館長1名、副館長1名、研究員6名他 計14名            施設整備費：約12億円（補助金なし）            施設運営費：約2億円／年</p> <p>■常設展示の特徴</p> <p>（1）学校備品の展示への活用            高校当時に使用していた机や椅子を展示物の一部に活用し、考える行為を自然に誘発する仕掛けとしている。</p> <p>（2）「見る」展示から「考える」展示への進化            各教室を1つの単位とした展示室を順番に巡りながら、自分自身で答えを探していく仕掛けとし、展示説明員との対話・交流の中で「考える」ことを促している。</p> <p>（3）ミドルヤード展示            博物館の舞台裏の活動の様子を来館者に理解してもらうため、標本作りや調査研究の様子を公開するミドルヤードを位置付け。</p> <p>■運営状況</p> <p>（1）来館者数            平成28年度約8万人、平成29年度約6.8万人            ※当初見込み：初年度14万人、5年後の平均8万人</p> <p>（2）企画展            平成29年度実績：5事業、平成30年度計画：4事業</p> <p>（3）アウトリーチ活動            遠隔地を中心として移動ミュージアム（ミュージアムキャラバン及びミニ博物館）を実施。平成29年度実績で約87万人を動員。</p>		

<p>評価と その理由</p>	<p>①建設コスト 新設では100億円かかると言われている博物館建設費について、旧県立高校を有効活用し15億円としたこと。</p> <p>②リノベーションへの工夫 太陽光の有効活用、当時の机・イスなど既存の備品を有効活用していることや間取りにも工夫されている。</p> <p>③運営 ミュージアムインタープリターの活用、地球環境史をテーマとした展示に加え、展示品をさえぎるものを極力なくし身近に鑑賞できる。</p>
<p>本市に反映 できること</p>	<p>①インタープリターの配置 より詳しくかつ専門的な見地をもったミュージアムインタープリターを常時配置して来館者に飽きさせることなく、また、もう一度、訪れていただくように仕掛ける。 *豊田市は環境学習施設 eco-T にて、すでにインタープリターを配置しており、そのノウハウはあると思う。</p> <p>②アウトリーチ事業 広域である豊田市において、定期的なアウトリーチ事業は欠かせなく、そこから興味をもってもらい、来館へと繋げる必要がある。</p> <p>③展示物以外の仕掛け 図書カフェや木材を有効活用したキッズルームを整備することで施設の魅力アップにつながる。</p>
<p>その他 (意見・課題 など)</p>	<p>・豊田市の博物館は今の高校跡地に新規に建設する計画なので、まずはコンセプト・テーマを設定して取り組んでいただきたい。</p>



## 視察報告書【2】

委員会名	教育社会委員会	委員長	桜井 秀樹
視察日時	平成30年7月11日（水）午後1時～午後2時30分		
視察先・概要	神奈川県大和市 人口：235,544人 面積：27.09km <sup>2</sup> ※人口はH30.6月現在		
視察内容	児童に対する英語教育		
選定理由	大和市では、平成32（2020）年の学習指導要領改訂に伴い小学校高学年の英語が正式教科となることを踏まえ、平成28（2016）年に「英語教育推進業務委託事業者」の公募を行った。公募では、児童英語教育の先駆者である事業者を選定し、担任と外国語活動指導助手（ALT）のチームティーチング観察、指導員派遣、指導（案）の提供や見直し、教材の提供などについて業務委託している。グローバル化の時代において「使える英語」の習得を目指す取組は、本市に当たっても参考になると考えたため。		
豊田市の現状と課題	本市では、平成32（2020）年度からの新学習指導要領に沿った小学校の外国語活動及び外国語教科化の実施に向けて、平成30年度から小学校へALT（外国人英語指導講師）を増員配置し、本格的な英語に触れる機会を増やすべく取り組み始めている。効果的かつ効率的な指導方法を確立することで、子どもたちの外国語に対する学習意欲をかき立て、学習効果を高めていく必要がある。		
視察概要	<p>■背景 平成32年度の外国語活動・外国語科全面実施に向けて、「児童が英語を使ってコミュニケーションがとれる」「担任がT1（授業を主導すること）として指導できる力を身に付ける」ために、専門性の高い業者をプロポーザルにより選定し、大和市の英語教育を推進</p> <p>■大和市英語教育推進事業 （1）短時間学習教材DVD“SWITCH ON!”の導入 DVDを使い、短時間学習（約15分間）を担当が主導して指導。週3回、年間105回実施。 （2）全市統一カリキュラム 次期学習指導要領の内容を適宜取り入れ、小学校6年間を見通した計画を作成。各学年の年間学習計画や1時間ごとの学習指導案を作成し、提供している。 （3）全市立小学校へのアドバイザーの派遣 小学校1～6年生の全クラスにアドバイザーを派遣し、授業参観及び事後指導を実施。 （4）指導室・mpi松香フォニックス共催による全職員対象の研修会 全校を訪問し、外国語活動研修会を実施</p> <p>■成果 教員については、担任主導の授業ができる教員が増加し、児童については、発音の良さや英語への興味・関心の広がり、すぐにフレーズ等を覚えるなどの成果を感じている。</p> <p>■課題 教員については、英語力について、自信がなく、自分で授業を組み立てる力を高めること。児童については、「聞く」「話す」力の向上と、「英語が好き」という気持ちを育むこと。また、小学校と中学校の連携や教科化した場合の評価をどのようにすべきかが課題</p>		

<p>評価と その理由</p>	<p>①行政トップの主導 市長自ら主導し、英語が話せる環境づくりに取り組んだ。</p> <p>②民間活用 教育体制づくりでは「英語教育推進業務委託事業者（mpi 松香フォニックス）」と契約しカリキュラムの作成及び教材等の整備を実施。</p> <p>③運用 単語や文字を繰り返し学ぶ 15 分程度の学習時間を繰り返し行い、時には音楽などを取り入れることで児童に飽きさせない取り組みを実施している。</p>
<p>本市に反映 できること</p>	<p>①英語教育推進業務委託事業者の公募 国・県とタイアップすることに加え、民間活用も1つの選択肢としておくのも必要である。</p> <p>②関係機関との連携 市内大学や企業と連携することに加え、英語デー（English day）を設けることで英語を学習する気運を醸成させる。</p>
<p>その他 （意見・課題 など）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語必須化による教員の多忙化の懸念がぬぐえない中、導入には負荷軽減に向けた取り組みも必要であり、そのためには行事改廃も必要である。</li> <li>・一方で、国際都市豊田市を標榜するなら英語力は避けて通れない。</li> </ul>





## 視察報告書【3】

委員会名	教育社会委員会	委員長	桜井 秀樹
視察日時	平成30年7月12日（木）午前10時～午前11時30分		
視察先・概要	千葉県我孫子市 人口：132,296人 面積：43.19k㎡ ※人口はH30.6.1現在		
視察内容	放課後子ども教室		
選定理由	<p>我孫子市では、平成19年には、従来からの学童保育室に加えて、放課後子ども教室推進事業として「あびっ子クラブ」をスタートさせた。あびっ子クラブは、実施小学校の学区内に在住する小学生を対象に、放課後や土曜日などに学校施設を活用して、子どもたちが安全に安心して過ごすことができる場。地域の人や保護者などにサポーター（有償ボランティア）として登録してもらい、子どもの活動支援やチャレンジタイムの指導・補助などで協力関係にある。本市においても、子どもの居場所づくりの参考になると考えたため。</p>		
豊田市の現状と課題	<p>本市でも、女性の就労ニーズの高まりや核家族化の進行などにより、子育てに不安を抱える保護者が増加するなど、総合的な放課後対策が求められている。次代を担う人材を育成するには、子どもと地域や社会とのつながりを強めながら、年齢や成長段階に応じた居場所や環境等の充実が必要である。</p>		
視察概要	<p>■概要 我孫子市では、放課後対策事業として学童保育室（放課後児童クラブ）とあびっ子クラブ（放課後子ども教室）の一体的な運営を行っている。</p> <p>（1）学童保育室 市内13小学校に17保育室を設け、就労支援の場として推進 開設時間は、（平日）放課後から19時（土曜日）8時から19時 月額8,000円（8月12,000円）の利用料金</p> <p>（2）あびっ子クラブ 市内小学校に12クラブ設置し、自己責任で利用 開設時間は（平日）放課後から17時（土曜日）10時から17時 利用に当たっては500円の登録料が必要</p> <p>■特徴 学童保育室とあびっ子クラブの運営に当たり、各責任者のほかにサブリーダー及びアシスタントが配置されている。サブリーダーとアシスタントについてはシフト制で両事業に携わることで、子どもたちのことを詳細に把握するとともに、経費削減にもつながっている。 各実施校ごとに運営会議とサポーター会議を設置し、学校の運営との調整やプログラムの企画・実施等を行っている。 学童保育のニーズが高まっているが、あびっ子クラブの開設時間を配慮することで、一定の需要をあびっ子クラブで対応できるようにしている。</p> <p>■課題 常設型で児童館機能を持ったものとしており、児童の利用の有無に関わらずスタッフを配置しなければならないため、人件費がかさんでいる。サポーターが少ない施設もあり、子どもたちの遊びがワンパターン化、マンネリ化しているところもある。</p>		

<p>評価と その理由</p>	<p>①運営 ・学童保育と「あびっ子クラブ」を一体運営することで、利用者の選択肢が広がり、かつ希望者全員を吸収することが出来る。 ・サポーター会議（サポーター、コーディネーター、行政関係者で構成）を定期的開催して都度問題点を摘出して解決につなげている。</p> <p>②サポーターの活用 有償ボランティアによる「チャレンジタイム」では、様々なメニューに基づき子どもたちが興味を持って取り組んでいる。</p>
<p>本市に反映 できること</p>	<p>①チャレンジタイムの導入 有償ボランティアによる様々なメニューを準備して児童の関心を高めていく。</p> <p>②利用時間の延長 指導員の確保の問題もあるが、豊田市では18時30分までであるが19時までの利用時間の延長も検討する必要がある。</p> <p>③豊田市版「とよたっ子クラブ」 あびっ子クラブの豊田市版の開設を検討する価値はある。</p>
<p>その他 (意見・課題 など)</p>	<p>・学校の中で運営している事業に「自己責任」はなじまない。 ・スタッフの確保はどこの自治体も同様な課題を抱えていることから抜本的な取り組みが必要である。</p>

